

いのち輝く
いばらきの会

臨時総会で県知事選候補者を擁立！

田中重博氏を満場の拍手で！



いのち輝くいばらきの会(いのち輝く会)は、2021年7月28日に水戸市内で臨時総会を開催し、18名が参加しました。いのち輝く会は今年3月21日に第1回(拡大)役員会を土浦市内で開催して以降、茨城県知事選挙をたたかう「会」の暫定役員体制・事務局体制の確立、「いのち輝く会」のなかに基本政策委員会・候補者選考委員会を設置し、各委員会の開催と事務局会議を重ねながら県知事選挙の準備をすすめてきました。

■「いのち輝く会」の会則を改正して知事選に臨むことを決定

司会進行を木村(泉)さん(県平和委員会代表理事)が務めました。冒頭、松下明行筆頭共同代表は「今日に至るまで様々な準備を進めていただいた皆さんに感謝を述べるとともに、県知事選挙の日程も決まった。悔いのない選挙戦をいっしょにたたかっていきたい。」と挨拶しました。

最初に「いのち輝く会」の会則を改正し、同会を県知事選の選挙母体にすること、さらに統一戦線の拡大をはかりながら新しい組織づくりをしながら県知事選をたたかうことを決定しました。

■県知事選候補者に「田中重博さん」(茨城大学名誉教授)が提案され、満場一致で決定

田村武夫候補者選考委員長から委員会の構成と、候補者説得工作を含め26回に及ぶ会議(Zoom含め)を行い、「田中重博

さん」に決定した経過が報告され、満場の拍手で承認・決定されました。田中重博氏は、総会の承認・決定を受け、県知事選挙に臨む決意を表明しました。

■二見さん(共同代表者)が、「選挙は生活そのもの。要求項目を絞って勝利へ」と提言！

綿引事務長が基本政策委員会が取りまとめた「いのち輝く会の基本政策(案)」を朗読し提案しました。「輝く会」の共同代表者である二見さんは、「沢山の要求項目を掲げるよりも、5つ位に絞って大井川知事と勝負する。喧嘩する。」「選挙は生活そのもの」と、知事選をたたかう「会」基本姿勢を語りました。《「輝く会報告」より改編して掲載》



田中重博(たなか しげひろ)氏
大阪府生まれ(74歳)。京都大学経済学部卒・同大学博士課程修了。茨城大学に就任、人文学部教授・同学部長・副学長を歴任。大学定年退職後、2013年知事選に立候補。現在、茨城大学名誉教授／茨城県自治体問題研究所理事長／茨城革新懇代表世話人 水戸市在

東海第二原発、安全工事現場の視察報告

「原子力村」に群がり「金」が
湯水のように使われている！



東海村平和の会の川崎篤子さんが申し込んでくれた「東海第二原発視察」に参加した。

7月30日(金)、参加者8人(県平和委員会から代表理事木村泉さん、篠原が参加)が川崎宅に集合し、顔合わせをした。10時、日本原電が手配したバスに乗り、敷地内にある東海テラパーク(原子力館)に5分程で到着。そこで視察日程の説明を受け、身分証(運転免許等)をチェックされ、入域カードとガイド用イヤフォンを渡された。身分証はそこでチェックされず、短時間だったが預けなければならなかった。

■想定(14m)を超える津波の来襲は、「想定しない」理不尽さ！

視察内容は、次の通り。東海第二発電所の概要説明(25分)→発電所全景説明(原子力館屋上 10分)→東海第二発電所の構内外周(バスに乗り 30分)→質疑応答等(10分)である。質疑応答は、事前に確認したように20分にしてもらいたいと要望した。

当日は、東海事業所副所長の金居田秀二氏等6人の所員に説明や案内をしていただいた。概要説明は、主に津波対策として防潮堤の建設や安全対策について強調されていた。直径約2.5mの鋼管杭を深部約60m打ち込み、さらにその上に標高20mの高さとなるように継ぎ足すとのこと。14mの津波を想定し、防潮堤の全長は1.7km、鋼管杭600本を「建込み」する工事を実施している、と説明した。

テラパーク屋上からは、原子炉建屋、タービン建屋、廃炉となった建屋、工事の様子などが間近に見えた。毎日1,400人を

超える作業員が働き、来年12月中の工事完了を目指していることは報道されている。

バスに乗りすると再度、構内ゲート前でチェックされる。カメラ・スマホは持ち込むことは禁止されていた。原子炉建屋の屋上ではクレーン車が数台忙(せわ)しく作業しているなど至る所で工事中だった。バスは、「東海港」に陸揚げされた鋼管杭や鋼管杭が3本「建込み」されたところ、防潮堤を見ながらあっという間に元の所に戻ってしまった。

■膨大な資金を湯水のように投入し続けている工事

津波対策、工事完了見通し、工事費用等について参加者から質問が出された。金居田副所長は、「海水の進入を防ぐより、ゴミ等を建屋に入れない工夫をしている」「工事費用は1,740億円を借り入れているが、稼働すれば売電収入はそれなりの額になる」「再稼働すれば2038年までとなる」などと答えた。

新聞報道によれば工事費用は2千億円を超えるが、返済は電気料金の値上げによって解決を図るのだろう。東海第二原発は今年43年目を迎えており、20年延長されたとしても、再稼働期間は17年ということになる。防潮堤の建設、耐震性の確保、さらにテロ対策と膨大な資金を投入し続けている。「廃炉が決まれば、更地にするというのが国の方針だ」と、金居田副所長はサラッと答えた。「廃炉費用も積み立てしている」、とも述べた。「原子力村」に群がる「金」、税金が湯水のように使われている現場を目の当たりにした視察となった。

■「原発ゼロの政治に転換しなければならない」と強く感じた視察

同原発30km圏内に約94万人が居住している。「実効性ある避難計画」など出来ないだろう。温暖化、気候変動の要因となっているエネルギー政策を変え、原発ゼロの政治に転換しなければならないと強く感じた。

《篠原 睦 事務局長・記》

百里基地正門前で響く 訓練即刻中止の声

「オスプレイいらない 百里基地抗議集会」が、7月29日（木）、航空自衛隊百里基地正門前でおこなわれました。土砂降り後の真夏日の下、10時30分から11時までの30分間、抗議の声をあげました。約80人が集まりました。

■「百里基地反対連絡協議会（百里連協）」が緊急会議で決定

本集会は、百里基地反対連絡協議会が7月22日に緊急会議を開き、抗議行動等の取り組みを話し合い、かつてない規模の抗議集会となりました。また25日の県平和委員会常任理事会は「土地利用規制法」の学習会を持ち、百里基地周辺の土地が「規制法」の対象となることなどの理解を深め、集会への参加を呼びかけした。

■茨城県平和委員会を始め「百里連協7団体」それぞれが抗議の声！

「百里基地反対連絡協議会」と「茨城平和擁護県民会議」は、それぞれ「V22オスプレイの訓練の中止を求める」抗議文を読み上げ、防衛大臣 岸 信夫・百里基地司令、空将補 石村 尚久宛の文書を基地職員に手渡しました。

続いて、百里基地反対同盟・茨城県平和委員会・茨城平和擁護県民会議・農民運動茨城県連絡会・社民党茨城県連合・日本共産党茨城県委員会・新社会党茨城県本部の各団体代表は、「百里の空にも、日本のどこの空にもオスプレイはいりません」「オスプレイの訓練は即刻中止することを求めます」等と抗議の声を上げました。立憲民主党の玉造順一県議会議員も駆けつけ発言しました。集会中も、戦闘機が飛び立ち、大気を引き裂く爆音、轟音によって、挨拶が聞き取れない場面もありました。

■回数や時間帯も知らせず、訓練を強行しようとする自衛隊

抗議集会は、農民運動茨城県連絡会の荻谷祥子さんのリードで「オスプレイはいらない」「欠陥機飛ばすな」「訓練やめろ」「憲法守れ」と2回ずつコールし、終わりました。

8月以降予定されている欠陥機V22オスプレイの訓練は、離着陸訓練・計器進入訓練等と報じられていますが、回数や時間帯も分かりません。百里基地への飛行ルートも明らかにされていません。今後も訓練の監視や抗議集会・行動等の取り組みが必要です。

■「防衛省へ、訓練中止の申し入れを！」と4市1町へ訪問して要請！

集会後、代表団6名（平和委員会2、百里基地反対同盟2、平和擁護県民会議2）は、小美玉市→茨城町→鉾田市→行方市→かすみがうら市の4市1町に「要請行動」をおこないました。走行距離

茨城町での要請-懇談



は200km以上となりました。茨城平和擁護県民会議代表・鈴木博久氏と事務局長・相楽衛氏、百里基地反対同盟・梅沢優氏、百里平和委員会・梅沢田鶴子氏、



F2戦闘機の爆音の中 80人が結集した抗議集会！

県平和委員会代表理事・木村泉氏と報告者・篠原の6人は、全市町を訪問しました。小美玉市・茨城町・鉾田市では地元議員も参加しました。

自治体への要請内容は、「地元住民を危険にさらす、欠陥機オスプレイの百里基地飛来に反対し、訓練中止の声を上げてください」「百里基地を使用した永続的な訓練強化を許さず、住民の生命・基本的人権・生活権を守る立場から多くの疑問・問題点に対して、関係自治体での協議



行方市での懇談 要請

を設け、対応を急いでください」の2点です。要請文を読み上げ、自治体の代表者と懇談しました。

■「百里基地周辺5市町連絡会」も防衛省北関東防衛局へ要請書

「百里基地周辺5市町連絡会」（会長 小美玉市・島田穰一市長）は、28日、防衛省北関東防衛局を訪れ、「安全飛行の厳守と正確な点検、円滑な連絡と情報提供」などを求める要請文を手渡したと報道（茨城新聞・29日付）されています。訪問団は、この要請内容にも言及しながら「オスプレイの訓練中止」と「住民への情報提供」を求めました。

■心底「訓練を止めさせてほしい」と訴える地元反対同盟の梅沢さん！

梅沢優氏は、「百里基地による騒音被害は、環境基準を超えた騒音であり、人が住めないと言われている。自衛隊戦闘機の騒音に加えて、オスプレイの騒音被害が重なる。『安全飛行の厳守』などと言わず、『訓練を止めてほしい』、と言ってほしい。オスプレイは欠陥機だ。アメリカ陸軍は一機も買わなかった。日本以外の外国も買わなかった。それを安倍前首相は一機200億円超の値段で、17機も購入した。訓練は、止めてくれ、飛ばないでくれ」と、5市町の代表者に、心底から、くり返し訴えました。

《篠原 睦・事務局長・記》

平和かわら版

No.914 2021 8. 5

【平和新聞茨城版】

発行 茨城県平和委員会

〒310-0912水戸市見川5-127-281 Tel/Fax.029-251-2806

お問合せは… E-mail: ibahei@amber.plala.or.jp

情報&
交流

茨城県平和委員会FaceBook

www.facebook.com/groups/449291196000108

